

令和元年度 綾部市立西八田小学校だより

とよさか

令和2年2月3日（月）発行

八田ブロック共通【学校教育目標】

「未来を切り拓く子どもの育成」

～夢いっぱいの子の八田の子～

八田ブロック共通【めざす児童像】

- ・自ら学び、自ら考え行動する子ども
- ・自分を大切に、人を大切にする子ども
- ・健康で、たくましく生きる子ども

「ありがとう」の心

3学期が始まって早1か月が過ぎました。昔から「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われるように、この時期は時間があっという間に過ぎてしまいます。1日1日を大切に、新しい学年になるための準備を行い、積み残しの無いように今の学年をしっかりと締めくくっていきたくと思います。

旧暦では、2月のことを如月（きさらぎ）と言います。その由来は諸説あります。

1つ目はこの時期はまだ寒さが残っていて、衣を更に重ね着することから「衣更着（きぬさらぎ）」。これが徐々に「きさらぎ」になったという説です。

2つ目は、草木や花の芽が出始め春の訪れを感じることでできる季節ということから、「草木張月（くさきはりづき）」というように呼ばれ、それが徐々に「きさらぎ」に変わっていったという説です。

3つ目は、春の陽気が更に来ることを表した「気更来（きさらぎ）」が由来となったという説です。他にもさまざまな説があるようです。季節や行事と関連させたこのような感性、表現に改めて日本文化の素晴らしさを感じます。

さて、学校では、2月23日（日）に行われる「ありがとう集会」に向けて、5年生を中心とした実行委員会を立ち上げ準備を進めています。また、6年生への感謝の気持ちやお世話になっている地域の方々への感謝の気持ちを表わそうと、各学年とも工夫を凝らした発表を考えています。ありがとう集会での各学年の発表が楽しみです。「ありがとう」という言葉は、「有り難し」を語源とし、「有ることが難しい」ということで、めったにないことをいいます。だからこそそこに感謝の気持ちが生まれるわけです。

では、「ありがとう」の反対語は何でしょうか？「有り難い」の逆だから「あたりまえ」ではないかと考えます。「～してくれてあたりまえ」、「～なんだからあたりまえ」。「あたりまえ」という心から「ありがとう」の感謝の気持ちは決して生まれません。出てくるのは不平や不満ばかりです。感謝の気持ちを持って、心から「ありがとう」と言える子どもたちを学校、家庭、地域が一緒になって育てていきましょう。

校長 小嶋 康弘

西八田の小窓

給食週間の取組

給食週間…1月20日(月)～1月24日(金)

給食集会…1月24日(金)13:25～

いつも子どもたちが食べている給食には多くの方々がかかわっておられます。その方々に感謝の気持ちを表すことをねらいとして実施しました。

お米や野菜をお世話になっている塩尻泰一さんやお肉をお世話になっている坂根鶏肉店さん、野菜をお世話になっているファーム彩さん、給食調理員の清水さん、森本さん、栄養士の西山先生をゲストに迎え、一緒に給食を食べたり、仕事についてお話を聞いたりしました。

その中で、子どもたちは給食にかかわっておられる全ての方に感謝するとともに、命をいただいている食材にも感謝して食べることも学びました。

また、給食週間では、各学年の発達段階に応じた給食指導を行いました。

